

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 宮城県 】

1 実践テーマ	【 II・III 】
2 実施対象者	宮城県利府高等学校 3年 42名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (生活と福祉)</p> <p>② 行事名 (バリアフリー施設見学会)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>実際に行われているバリアフリー化への取り組みやサービスを紹介してもらうことにより、障がい者がスポーツ観戦をする上での問題点などを考え、障がい者の自立支援、介護・看護に関する知識・技術を深める一助とする。</p>
5 取組内容	<p>楽天野球団の協力を得て、「楽天生命パーク宮城」において地域密着活動や施設のバリアフリー化への取り組みについて講演をしていただいた後、実際に施設を見学させてもらった。</p> <p>3年次生の選択教科「生活と福祉」の授業において、車イス体験や視覚障がいの疑似体験をしているが、実際にどのようなサービスが行われているのか、障がい者向けの最新の設備がどのようなものであるのかなどを直に見ることができ、貴重な体験となった。</p> <p>① 講演</p> <p>楽天生命パーク宮城内の一室において、楽天野球団ボールパーク本部ボールパークオペレーション部部长 大野憲一 氏による講演をいただいた。(写真①-1, ①-2)</p> <p>球団創設時からどのようにしてファンを獲得・定着させるための努力をしてきたかなど、スポーツを支える立場から講演していただいた。その中でバリアフリー化についてもふれ、施設面だけではなく障がい者へのサービスにも注力していることが紹介された。</p> <p>プロとして、慈善事業ではなく経営が成り立たなければならないことなど、高校生にとって現実味のある内容もあり、授業で学んできた知識と比較しながら真剣に聴き入っていた。</p>



(写真①-1)



(写真①-2)

② バリアフリー施設見学

講演後、実際に楽天生命パーク宮城の施設見学ツアーを行った。(写真②-1) バックヤード見学後(写真②-2)、実際に車いすで来場した場合の対応などを体験し、スムーズに移動できる動線が確保されていることを説明していただいた。(写真②-3から②-6)



(写真②-1)

施設見学ツアー出発



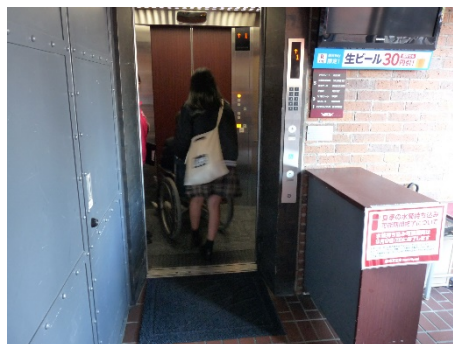
(写真②-2)

バックヤード見学



(写真②-3)

車いすで実際に移動してみる



(写真②-4)

車いすのままエレベーターで移動可能



(写真②-5)

バックネット最上部にある車いす専用席から球場を眺める



(写真②-6)

また、3 塁側内野席にある車いす専用席には、ファールボールに備えてネットがかけられている。しかし、風船を飛ばすなどのイベント時にはすぐにネットがはずされ、またそのための人員が配置されていることなどの説明があった。(写真②-7, 8)



(写真②-7)

車いす席にはファールボールに備えてネットがある



(写真②-8)

スロープになっている

見学途中では、車いすのままでも利用しやすい最新の多目的トイレも見学することができ、その機能を説明していただいた。(写真②-9, 10)



(写真②-9)

多目的トイレの案内表示



(写真②-10)

多目的トイレ

全体を通して、授業を通して学校内で学んできたことが実際にどのように取り組まれているのかを体験することができ、有意義な企画であった。特に、障がい者がスポーツを楽しむことをサービス業として成り立たせている楽天野球団の取り組みは、生徒にとって新鮮だったようである。

6 主な成果

実施後の最初の授業で、振り返りとしてアンケートを実施したが、全員が今回の企画が有意義であったと答えてくれた。その中でも多かった感想として、以下のようなものがあった。

- ・プロ野球だけでなく様々なイベントを実施しており、お客さんが楽しめる工夫をしていることがわかった。
- ・球場を利用したことはあるが、車いすのままでも楽しむことができることが初めてわかった。
- ・施設面だけではなく、サービスとしてきちんと人が配置されているなど、高齢者や障がい者にも配慮していることがわかった。
- ・安全面で細かいところまで気配りされていることがわかった。
- ・最新の多目的トイレは、よく考えられていると思った。

	<p>以上のように、身近な施設ながら障がい者へのサービスが具体的にどのようなになっているのかを初めて知ったという生徒が多かった。授業で学んだことが実際のどのように活用されているのかを体験することができ、知識を深めることができたようである。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>事前の授業で車いす体験などを実施し、校舎内で基本的な操作方法を学んでから参加させた。また、バリアフリーの施設はなかなか実際に見る機会がないため、見学前後の授業で補足するなどし、理解が深まるようにした。</p> <p>また、事前に楽天野球団と綿密に連絡を取りあって準備していたので、当日は非常にスムーズに実施することができた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>当初は、全校生徒または 3 学年生徒全員を対象に実施してもらうことも検討したが、年度途中からの立案・計画では実施できなかった。そのため、家庭科「生活と福祉」の授業の一環として実施し、3 年生の希望者を加える形で実施した。しかし、実際に行ってみると補助者・介護者の育成という点だけではなく、スポーツを支える視点や障がい者もスポーツを楽しむインクルーシブ社会を作るための視点など、オリンピック・パラリンピック教育を通して学ばせたい内容がたくさん盛り込まれていた。参加した生徒の感想も上々で、もっと多くの生徒に体験させたかった。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>全くの同じ企画・内容では難しいかもしれないが、他のスポーツ施設の見学など、実際に障がい者がスポーツ観戦を楽しむためにどのような工夫がなされているのかを考えさせる体験活動は何らかの形で実施していきたい。</p>